

成田・羽田両空港間及び都心と両空港間の鉄道アクセス改善
に関する検討委員会（第1回）

議 事 概 要

1. 日 時 : 平成21年7月23日(木) 18:00~20:00
2. 場 所 : 中央合同庁舎3号館 11階特別会議室
3. 出席者 : 別紙参照
4. 議事概要

【今年度の調査の進め方及び平成20年度調査のレビュー】

- ・平成20年度調査は、目標達成に向けた大まかな前提に基づき、今後技術的検討を進めて行くに当たっての課題や問題点を整理したところである。今年度は、詳細な技術的検討を行い、事業費や需要、事業性等、プロジェクト全体が見えるところまで実施する方向である。
- ・整備スキームについては、幅広く検討する必要がある。
- ・相互直通のような提供されるサービスにより、駅の構造等が関係してくるので、そのマッチングを図ることが必要である。
- ・提供されるサービスや駅位置等により需要が大きく変化することが考えられるため、需要予測の仕方等についても十分議論する必要がある。

【技術的検討について】

- ・提供される運行本数等については、既設線への影響も考慮し、様々なケースを検討することが必要である。また、短絡線取付位置に係る技術的検討に加え、既存駅の改良も含め検討する必要がある。
- ・短絡線と都営浅草線それぞれの運行本数については、信号改良や路線改良による最大運行可能本数を見極めた上で、既存路線への影響を考慮し、整備効果が最大限発揮されるような運行本数となるよう検討を行う。
- ・ピーク時間帯にスカイライナー系車両を走らせる場合は普通列車が待機させられるデメリットもある。一方、ピーク時間帯にスカイライナー系車両を走らせない場合には、羽田方はともかく成田に行くのに着席がほとんど保証されない状態がよいのかどうかという議論になると思うので、それらも含めて考えていかなければならない。
- ・利用者にとっては、本数が多いこと、楽に行けること、短時間でいけること、コンフォータブルに行けること、安く行けること、乗換抵抗が少ないことが重要である。
- ・新東京駅の位置・構造については、相互直通運転時の事故や遅延対応として引き上げ線等の必要性も含めて検討することが必要である。また、需要がどの程度か、その需要に耐える設備かどうかという点も併せてフィードバックして進めていくことが重要である。

【その他】

- ・本プロジェクトは、首都圏空港の国際競争力確保という観点から検討が始まったプロジェクトである。
- ・都市鉄道としての時間短縮便益が大きいのが、都市鉄道としての観点から本プロジェクトの説得力は示せない。本来空港アクセスの改善という目的で始まったことを十分認識し、国として必要なプロジェクトだという目的に沿って検討を行うことが重要である。

以上